

『ADR を利用した離婚協議の実務』

目次

はじめに——本書の構成と読み方	1
-----------------	---

第1章 ADR の法律と技法

第1節 ADR の法制度	4
1 ADR とは	4
(1) 「ADR」という言葉	4
(2) 「紛争」とは	5
(3) 「紛争解決」とは	10
(4) ADR とは	14
(5) ADR の諸類型	16
2 ADR と法・司法	19
(1) 法による ADR の認知・位置づけ	19
(2) ADR における解決内容と法	21
(3) ADR における手続と法	23
(4) ADR と司法	25
3 日本における ADR	27
(1) 日本における ADR の歩み	27
(2) 日本の ADR の現状と特徴	31

第2節 ADR 法の概要と ADR 利用促進に向けた取組み

1 はじめに	33
2 ADR 法の制定経緯	34
(1) 司法制度改革審議会意見書	34
(2) ADR 検討会における検討等	35

(3) ADR法の成立	37
3 ADR法の概要	38
(1) ADR法の特徴	38
(2) 認証の意義およびその基準等	38
(3) 認証によって付与される法的効果等	42
4 認証紛争解決手続の概況	44
(1) 認証紛争解決事業者の数および運営主体等	44
(2) 認証紛争解決事業者の紛争の取扱実績等	45
5 ADRの利用促進に向けた法務省の近年の取組み	47
(1) ADRの周知・広報等の取組み	47
(2) ODR推進のための取組み	48
6 令和5年ADR法改正	52
(1) ADR法改正の経緯	52
(2) 令和5年改正法の概要	54
7 おわりに	57

第3節 ADRの現場からみた技法の大切さ … 59

1 調停人として必要なものは	59
(1) 法的知識	59
(2) 論点に気づく力	60
(3) 子どもの心理・発達に関する知識（発達心理学）	62
(4) 人格	63
(5) 調停技法	64
2 調停技法の大切さに気づいた理由	64
(1) 筆者が調停技法に出会ったとき	64
(2) 調停技法習得のための実践	67
3 調停技法向上のためにできること	70

第4節 調停技法	71
1 はじめに	71
2 対話型調停の概要——調停人としてのスタンスを中心に	72
(1) ボイスとチョイス	72
(2) 気持ちと事実の両面を話す——納得と公正さの両面を追求	73
(3) 個別化の実際——当事者の語りをふくらませる聴き方とはどのようなものか	74
(4) 要求の妥当性を検討するのではなく、ニーズを満たす選択肢を探す	76
(5) 情報提供を行わざるを得ない状況はどのような場合か	77
(6) 同席と別席	78
(7) 体を張る感覚	79
3 調停のステージ	80
(1) ステージモデルの外観	80
(2) はじめの挨拶	82
(3) 相互理解の促進	86
(4) 課題の特定	92
(5) 選択肢の開発	94
(6) 合意文書作成	96
(7) 調停の終結	98
4 調停技法の各論	98
(1) 共同調停	98
(2) 当事者以外の参加者	100
(3) ビジュアルツールの活用	100
(4) オンライン会議システムの活用	101
5 離婚当事者に向けた支援と支援リテラシー	102
(1) 支援の学習範囲	102
(2) 支援リテラシー	104
(3) 調停トレーニングが体験型である必要性	105
(4) ライフスキルとしての調停技法	105

6	現代日本社会における離婚調停	106
(1)	家族モデルの刷新に向けて	106
(2)	親自身のケアと子の利益	109
7	おわりに	110

第2章 離婚問題とADR

第1節 離婚問題をADRで協議する意義

1	協議離婚の現状	112
(1)	家族法改正の議論	112
(2)	協議離婚に関する調査結果（令和3年度実施）	114
(3)	令和3年度全国ひとり親世帯等調査	116
2	離婚問題をADRで議論する意義	119
(1)	選択肢の少なさが課題の現行制度	119
(2)	離婚協議におけるADRの役割	121
3	養育費確保におけるADRの役割	121
(1)	法務大臣養育費勉強会	122
(2)	養育費不払い解消に向けた検討会議	123
(3)	成長戦略フォローアップ（2020年）	123
(4)	自治体による養育費確保事業とADR	123

第2節 ADRを利用した離婚の実際

1	離婚ADRの手続の流れ	125
(1)	ADRの説明（申立て前の情報提供）	125
(2)	申立ての手続	126
(3)	相手方への連絡	131
(4)	相手方の回答	133

(5) 期日の決定	137
(6) 調停人の選任	138
(7) 初回調停期日	139
(8) 終結（成立・不成立）	145
2 家庭裁判所の離婚調停と民間 ADR の離婚調停との違い	146
(1) 申立ての手續	147
(2) 解決までの時間	149
(3) 費用	151
(4) 利便性	153
(5) 執行力の有無	154
(6) 調停人の資格要件	154
(7) 利用者像	161
第 3 節 ADR を利用した話し合いの特徴	165
1 同席調停か別席調停か	165
(1) 話しやすさ	165
(2) 終結までの時間	166
(3) 真意の伝わりやすさ	166
(4) 齟齬や誤解の生じやすさ	167
(5) 透明性	168
(6) 理性度	168
(7) 問題解決力	168
(8) 調停人に求められるスキル	169
(9) 同席調停が望ましいと考える理由	169
2 オンライン調停か対面調停か	170
(1) 相手との直面性	170
(2) 協議の場の環境	170
(3) 透明性	171
(4) 手軽さ	171

(5) 距離感	172
(6) 秘匿性	173
3 対話促進型調停	173
(1) 当事者の主張をより良く聞く	174
(2) 意見の調整の方法	179
(3) 自己決定支援	180
4 多様性を重視した柔軟な対応	180
(1) 手続上の柔軟性	181
(2) 合意内容に関する柔軟性	182

第4節 ODR 184

1 ODRとは	184
2 アメリカのODR	184
(1) ECサイトでの利用者同士のトラブル解決	184
(2) 離婚テック	185
(3) メディエーション	186
(4) 裁判所のODR	187
3 日本のODR	187
(1) ICTを利用した情報提供	188
(2) ICTを利用したADR	189
(3) ICTを利用した面会交流サービス	190
(4) 法務省による実証事業「ONE」	191
4 今後のODRの発展	192

第3章 事例を通して体験する 離婚ADR

はじめに	196
事例1 「夫の涙は初めてでした」	197
事例2 「私に何もかも決めさせないでほしいの」	202
事例3 「得をしたいわけじゃない、損をしたくないだけ」	208
事例4 「親も同席していいですか？」	215
事例5 「長年の感謝は伝えたい。でも、もう気楽に生きたいんだ」	223
事例6 「どうやって話し合ったらいいのかわからないのです」	231
事例7 「勝手に申し立てられて迷惑です」	238
事例8 「共同養育がしたいんです！」	243
事例9 「ほとんど合意しています。でも、ほんの少し調整が必要なんです」	251
事例10 「子どものために夫婦関係を修復したいです」	256
事例11 「意思疎通ができないから第三者を入れたいんです」	264
事例12 「家庭裁判所で決着を付けることにしました」	273
事例13 「子どもの声が教えてくれました」	280

第4章 アンケート結果——ADRを 利用して離婚協議を行った当事者の声——

はじめに	288
I アンケート結果（抜粋）および考察	289
Q1 あなたは申立人ですか、それとも相手方ですか	289
Q2 性別を教えてください	289
Q3 ADR開始時のあなたの年代を教えてください	289
Q4 （申立人への質問）申立て理由（離婚理由）は何ですか（複数回答可）	290
Q5 ADR実施前後に別居していましたか	291

Q 6	ADR実施前、夫婦間の葛藤（不仲の度合い）は高かったですか	291
Q 7	（申立人への質問）協議の方法として第三者を介する方法を選んだのはなぜですか（複数回答可）	292
Q 8	ADRのどのような点が利用の決め手となりましたか（相手方は、どのような点が応諾の決め手となりましたか）（複数回答可）	292
Q 9	（申立人への質問）協議の方法として家庭裁判所の調停を利用しなかったのはなぜですか（複数回答可）	293
Q 10	ADRの結果は成立でしたか、不成立でしたか	293
Q 11	ADRが終了してからどのくらい経過していますか	293
Q 12	ADR実施に際し、どのようなことを大切にしたいと思っていましたか（複数回答可）	294
Q 13	ADRによる話し合いの過程（プロセス）に満足していますか	294
Q 14	ADRによる話し合いの結果（離婚条件等）には満足していますか	295
Q 15	養育費（月額）の取り決めはありましたか。その場合、月額の金額はいくらでしたか（1人につき）。一括払いや学費払いの方はその他にご記入ください	295
Q 16	養育費の支払いは現在も続いていますか	296
Q 17	面会交流は取り決めましたか、その場合、頻度はどのくらいでしたか	296
Q 18	面会交流は現在も続いていますか	297
Q 19	同席（オンラインも含む）でADRを行いましたか	297
Q 20	オンライン調停を利用した理由は何ですか（複数回答可）	297
Q 21	オンラインADR前に不安に感じていたことは何ですか（複数回答可）	298
Q 22	実際にオンラインを利用してみて、不便や不満はありましたか。また、どんな点に不便や不満を感じましたか（複数回答可）	298
Q 23	実際にオンラインADRを利用して、便利な点や良かった点はありますか。どんな点が便利で良かったですか（複数回答可）	299
II	アンケート結果を使った統計調査	300
1	同席・別席の違いと満足度・成立率の関係	300

2 対面・オンラインの違いと満足度・成立率との関係	301
3 申立人と相手方のオンライン調停の不便さに関する感じ方の違い	302
4 男女の違いと満足度の関係	302
5 養育費と面会交流の関係性	303
Ⅲ アンケート結果を踏まえて	305
〈付録〉 パパとママの離婚講座	306
・編著者・著者紹介	314